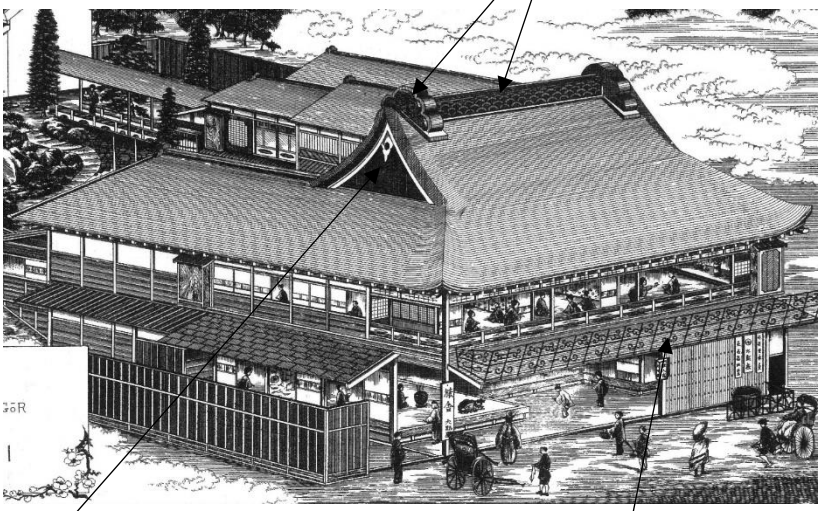
総合案内所「総屋（ふさや）」

（１）概要　房総のむら出入り口に建つ総合案内所「総屋」は、成田の新勝寺門前に江戸時代末期に建てられ、昭和初期まで使用された大野屋旅館の外観を一部再現しています。

明治 27 年（1894）頃の銅版画を元に、広い開口部と白壁、格子、そして豪壮な入母屋屋根を再現し、房総のむら総合案内所の機能を持たせた建物です。なお、屋根材はサワラの板で葺いた「こけら葺き」でしたが、当館では防火に配慮して銅板葺きで再現しました。

熨斗（のし）瓦を青海波３段に葺いた大棟に合わせて、鬼瓦を大きく見せるため、鬼瓦周囲に漆喰を盛り上げた影盛りをした大きな入母屋屋根です。



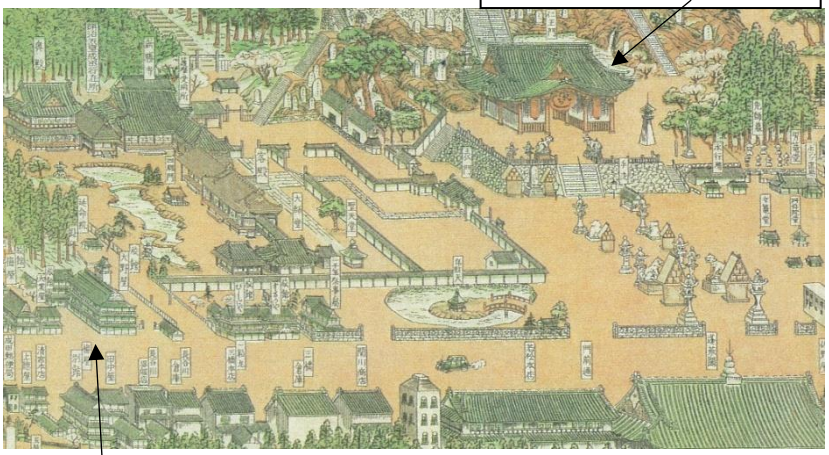
懸魚（げぎょ）に木連格子狭間（はざま）

明治期流行の飾り金物

昭和 61 年 国書刊行会『目で見る千葉県の明治時代』より一部転載

（２）大野屋旅館について　創業は江戸中期と伝わり、文政 10 年（1827）の「旅籠（はたご）市蔵」が史料初見で、多くの成田講の定宿で、歴史ある旅館です。なお、新勝寺門前の成田村には天保 14 年（1843）に 32 軒の旅籠屋がありました。

新勝寺仁王門



昭和 13 年築の大野屋旅館　木造 3 階建て望楼付きの特徴的な建物でしたが、令和 3 年に取り壊されました。

成田山仏教図書館所蔵『千葉県成田山新勝寺鳥瞰図』より一部